

彩の歳時記

平成二十七年 十二月

一度だけ本当の恋がありました。南天の実だけが知っておられます。山崎方代(ほうだい)【1914～1985】
年越すがひとつ願ひの父と見る 霜おく庭に南天赤し 君山宇多子
億年のなかの今生 実南天 森 澄雄【1919～2010】
おもひつめては南天の実 種田山頭火【1882～1940】

南天は中国原産で漢名「南天燭なんてんしよく」の略。花は夏、実は冬の季語。

「難を転ずる」に掛け、縁起物とされ、家の鬼門・裏鬼門に植えられます。
福寿草とセットで、「災い転じて福となす」ともいわれ、健胃、解熱、鎮咳など。
作用。また、生け花では長持ちで最後まで枝にあることから、酒席に最後まで残る人々を「ナンテン組」と言う地方も。冬のくすんだ景色の中で、そこだけが赤く鮮やかな南天の実。そんな装いを心掛けて、十二月を華やかに過ごしたものです。



十二月の暦 師走：師匠の僧がお経をあげるため、東西を馳せ巡ることから「師馳す」に

一日 映画の日 1896年、神戸で初めて映画が一般公開された日。映画館の入場料割引などがある。

七日 大雪【二十四節気】冬の魚の漁が盛んになり、熊が冬眠に入り、南天の実が赤く色付く。

太平洋戦争開戦記念日 1941年、日本軍のハワイ真珠湾攻撃で開戦。七十年余りが経つ。これが、最後の開戦記念日であることを願っていたもの。



九日 漱石忌 2016年は没後100年、2017年は生誕150年と連続して記念年となる



近代日本を代表する文豪・夏目漱石【1867～1916】の忌日。東京牛込生まれ。千円札(昭和59年～平成16年)の肖像に。東京帝大卒業。松山中学、第五高校の教師を経て、ロンドン留学後、東京帝大で英文学講師。高浜虚子主宰の「ホトトギス」に『吾輩は猫である』を發表。『三四郎』『それから』『こゝろ』『道草』など。作品のゆかりの地が多く点在する早稲田雑司が谷・本郷界隈を文学散歩することが静かなブームになっている。

十日 ノーベル賞授賞式 ダイナマイトの発明者・ノーベル【1833～1896】の忌日に母国スウェーデン

ストックホルムで行われる。物理学賞の梶田隆章(56)、医学生理学賞の大村智(80)氏が出席。

二十二日 冬至【二十四節気】北半球では最も日が短く、この日を境に昼の目が一つずつ

日脚が長くなってゆく。柚子湯に入り、かぼちゃを食べて無病息災を祈る。



二十三日 天皇誕生日・今上天皇・明仁陛下【第125代】は昭和八年、ご誕生。八十二歳に。

皇后陛下と共に皇居で元気にスロージョギングをする映像が公開された。



二十五日 クリスマス 「イエス・キリスト」の生誕の日とされる。



三十一日 大晦日(おおみそか) おおつごもり
「漱石が来て虚子が来て大三十日」正岡子規 明治28年【1895年】

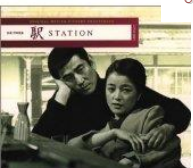
十二月の歌 舟歌 詞 阿久悠【1937～2007】 曲 浜圭介【1946～】

1979年発表。1981年の映画『駅 STATION』(降旗康男監督)の中で、

紅白歌合戦で八代亜紀が歌う「舟歌」をカウンターで肩を寄せて聞く三上(高倉健)と桐子(倍賞千恵子)の場面は日本映画屈指の名シーンといわれる。「ダンチヨネ節」は本歌取をしているが、八代版は歌詞が部分的に書き改められている。

ダンチヨネ節は神奈川県の花柳界で歌い慣わされていた俗謡。

1991年、新三共胃腸薬のCM曲。酒を飲みすぎ反省する人間に扮した反省猿(二代目)の次郎が、雪景色の中『舟唄』に乗って、薬のパッケージに寄りかかり「反省ポーズ」する姿が話題をさらった。



お酒はぬるめの 烟がいい
着はあぶつた イカでいい
女は無口な ひとがいい
灯りはほんやり 灯りやいい
しみじみ飲めば しみじみと
想い出だけが 行き過ぎる
涙がポロリと こぼれたら
歌い出すのき 舟唄を
沖の鷗に 深酒させてヨ
いとしあの娘とヨ 朝寝する
ダンチヨネ 後略